



# 気象変化に対応する米づくりへ Part2 過去の等級低下年の気象比較

今年産のような等級比率が低下した品質不良年は過去にも見られ、その都度、必要な対策を講じて品質改善を行って来ました。過去の品質低下年と特徴を比較し、次年度の品質課題について整理しましょう。

過去の品質低下の主要因は、出穂以降の夏期の高温または、低温による乳白粒の多発によるものです。

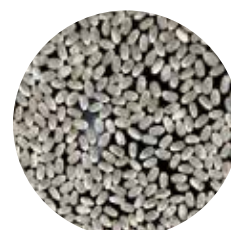
今年度は、従来の乳白粒の発生に加え、8月～9月にかけても気温の低下が見られず、夏期の高温が維持され、カメムシ粒による被害はコシヒカリで多発、中晩生品種の被害では、過去に見ない著しい被害となりました。**次年度以降の乳白・心白粒対策・カメムシ粒対策**が引き続き重要なポイントとなることが再確認できます。

## 【滋賀県の過去の品質不良の年】

品質不良年	1等比率	要因
1999年(H11)	45%	高夜温
2002年(H14)	49%	高温
2010年(H22)	43%	高温
2014年(H26)	51%	日照不足
2019年(R1)	18%	日照不足・高温

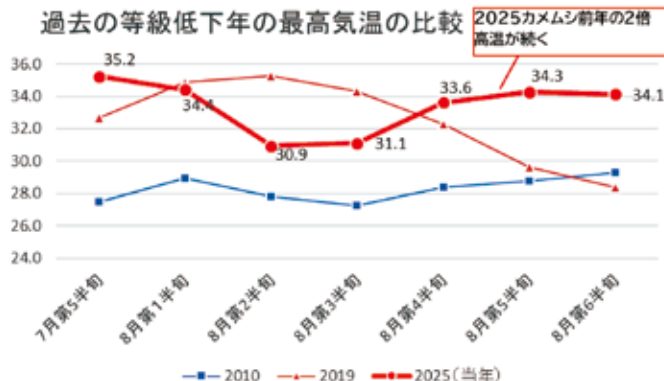
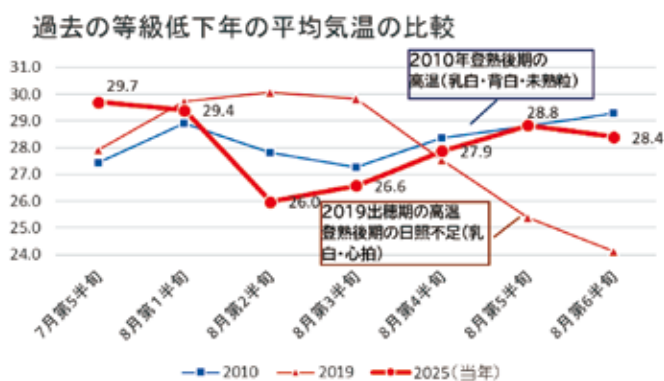


今年産のカメムシ粒  
(規格外)



今年産の乳白粒  
(3等)

## 出穂期から登熟後期の気象特徴



次回は重要となる技術対策ポイントについて掲載します。

pick up  
営農指導  
活動

## 11/21(金) 水稻栽培手引き・生産資材説明会

営農企画課は職員向けに令和8年産水稻栽培手引き・生産資材説明会と、各支店に設置してある農業電子図書館の活用法を実践形式で学ぶ研修を実施しました。

この説明会は、管内の農業者が次年度に向け必要な準備を始められるよう営農指導力強化を目指して毎年実施しているものです。今回は令和7年産で猛威をふるった高温と水稻カメムシの対策を中心としました。

農業電子図書館は病害虫診断や適応農薬などを検索できるデータベースシステムです。最寄りの支店や経済センターのタッチパネルでご利用いただけます。機能が非常に充実して便利ですので、ぜひご利用ください。



令和8年産水稻栽培のポイントを詳しくご覧になるには、公式HPからが便利!! ▶▶▶



▲タッチパネル形式の農業電子図書館